

## 経営分析指標の説明

指標の見方 ↑：高い方がよい ↓：低い方がよい

項目	業務指標 (PI) の定義	単位	内容・目的	指標
経費回収率	$\left[ \frac{\text{使用料単価}}{\text{汚水処理原価}} \right] \times 100$	%	使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているか表した指標であり、使用料水準等を評価することが可能。 使用料で回収すべき経費を全て使用料で賄えている状況を示す100%以上であることが求められる。	↑
汚水処理原価	$\left[ \frac{\text{汚水処理費}}{\text{有収水量}} \right]$	円/m <sup>3</sup>	有収水量1m <sup>3</sup> 当たりの汚水処理に要した費用であり、汚水資本費・汚水維持管理費の両方を含めた汚水処理に係るコストを表した指標。 明確な数値基準はないが、低い方が望ましいと言える。	↓
施設利用率	$\left[ \frac{\text{晴天時一日平均処理水量}}{\text{晴天時現在処理能力}} \right] \times 100$	%	施設・設備が一日に対応可能な処理能力に対する、一日平均処理水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標。 明確な数値基準はないが、一般的には高い数値が望ましいとされる。	↑
水洗化率	$\left[ \frac{\text{水洗化人口}}{\text{処理区域内人口}} \right] \times 100$	%	現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理をしている人口の割合を表した指標。 公共用水域の水質保全や、使用料収入の増加等の観点から100%となっていることが望ましいと言える。	↑
使用料単価	$\left[ \frac{\text{使用料収入}}{\text{有収水量}} \right]$	円/m <sup>3</sup>	使用料の水準を示す指標。 汚水処理原価や経費回収率等の指標と総合的な観点で検討を行うことが求められる。	総合的に判断